

1 施策の実施状況

基本方針	目標	達成指標	令和6年度		取組状況の評価
			目標	実績	
Ⅰ	①あしがるバスを核とした移動利便性の向上	鉄道との乗継を考慮したあしがるバスのルート設定	実施	実施	・市内に複数ある鉄道駅へのあしがるバスの乗り入れを継続するとともに、地域公共交通会議に新たに鉄道事業者にも参画していただき、既存の鉄道網を生かした交通ネットワークの形成を目標とする第2次地域公共交通計画を策定した。 → 今後は、第2次計画に基づき継続的な改善を図る。
	②鉄道・バスを利用できない障害者・要介護者等を対象とした移動手段（STS（※1））の確保	タクシー料金助成制度の継続実施	実施	制度に基づき実施	・障害者に対するタクシー料金助成制度及び福祉有償運送制度を継続して実施し、適切な運用を図った。 → 今後も福祉の推進、外出機会の確保・増加を図るとともに、障害者や要介護者等に対する安全・安心な輸送サービスを確保するため、継続実施に努める。
		福祉有償運送制度の継続実施	実施	制度に基づき実施	
Ⅱ	④地域公共交通に関する積極的な情報発信	あしがるバス利用促進イベント等の開催回数	1回以上	1回	・令和6年度もバス乗り方教室や春日五条川さくらまつりでのPRイベントを開催し、バス利用の機会創出やバスロケーションシステムを知っていただくきっかけとなった。 ・市ホームページにおいて、名古屋タクシー協会HPへのリンクを掲載し、運賃や各種割引、配車アプリ対応等の情報を周知した。 → 今後も継続して実施し、利用促進に努める。
		コミュニティバス乗り方教室の開催回数	1回以上	2回	
		タクシーに関する情報発信	実施	計画通り実施	
	⑤地域公共交通サービスの充実	バスロケーションシステムの運用	運用	計画通り運用	・バスロケーションシステムを運用し、バスの運行状況を発信するとともに、お知らせ欄を活用してイベント等を周知し、スムーズな情報発信と問合せ対応をすることができた。 ・バス情報のオープンデータを適宜更新し、適切な情報を発信した。 → 今後も最新で正しい情報を提供し、活用していただけるよう周知も努めていきたい。
		バス情報のオープンデータ化	実施	継続して実施	
	⑥安心・安全かつ円滑・快適に利用できる駅前環境の整備	自転車等放置禁止区域の見回りの実施	実施	計画通り実施	・定期的に自転車等放置禁止区域の見回りを実施し、自転車の放置防止に関する啓発に努めている。 ・清洲駅前土地区画整理事業では、区画道路の道水路築造、埋蔵文化財調査及び移転補償を行った。 ・新清洲駅北土地区画整理事業では、前年度から引き続き建物等の移転補償を進め、併せて道路の築造等の整備を実施した。 →令和7年度以降も計画通り実施していく。新清洲駅周辺の区画整理工事は一時中断となり、鉄道高架事業を実施する。
		土地区画整理事業の推進（JR清洲駅）	実施	計画通り実施	
		土地区画整理事業の推進（名鉄新清洲駅）	実施	計画通り実施	
Ⅲ	⑦市民・交通事業者・行政の協議の場づくり	地域公共交通会議の開催回数	3回以上	4回	・地域公共交通会議を4回開催し、第2次地域公共交通計画の策定に関する議題を中心に、市民、交通事業者、関係団体との協議を行った。 ・今年度から鉄道事業者にも新たに参画いただき、計画の策定に向けて、連携を深めつつ会議を開催した。 → 今後も、地域公共交通計画に基づき、適切に会議を開催していく。
		地域公共交通会議への市民委員の参加	参加	参加	
	⑧市民ニーズの把握	市民アンケート調査等の実施	-	-	・令和6年度は計画上実施せず。 → 令和7年度はルート・ダイヤ改善に向けた検討のため、市民アンケート調査を実施する。

※1 Special Transport Service（スペシャル・トランスポート・サービス）の略

2 施策実施の成果

基本方針	目標	達成指標	令和6年度		取組状況の評価
			目標値	実績値	
Ⅰ	①あしがるバスを核とした移動利便性の向上	あしがるバスの収支率	8.9%	9.3%	・あしがるバスの収支率については、長引く原油価格の高騰により燃料油脂費が高止まりしているが、利用者数がコロナ禍前の状況を上回った令和5年度に引き続き増加したことから、目標値を達成することができた。 ・あしがるバスの利用者1人当たり財政負担額については、前年度の809円より改善したものの、未達成となった。 ・あしがるバスの利用者数は、どのルートにおいても未達成であったが、全体としては令和5年度に引き続き利用者の増加傾向は現在も続いている。ルート別にみると、ブルールートは大幅に利用者が増加したものの、オレンジルートは令和5年度より減少するなど傾向の違いがみられる。 → 今後も新規利用者の獲得に向けて、イベント等に合わせて利用促進施策を継続実施するとともに、利用方法やバスロケ等の活用の周知に努める。
		あしがるバスの利用者数（年間）	101,100人	87,931人	
		（【参考】オレンジ グリーン サクラ ブルー	19,400人 30,000人 32,300人 19,400人	14,535人 26,607人 27,429人 19,360人	
		あしがるバスの利用者数（1便あたり）	6.5人	5.4人	
		（【参考】オレンジ グリーン サクラ ブルー	4.9人 7.6人 8.2人 4.9人	3.7人 6.7人 7.0人 4.5人	
		市の財政負担額（利用者1人あたり）	800円	805円	
	③市内観光施設を巡る移動手段の確保	レンタサイクルの利用者数（年間）	150人	292人	・レンタサイクルの利用者数は、令和5年度の227人から28.6%増加し、引き続き目標達成となり、事業の認知度が向上しているものと推察される。 → 今後も引き続き観光誘客の促進と合わせて事業の周知に努める。
Ⅱ	④地域公共交通に関する積極的な情報発信	あしがるバス一日無料デーの参加者数	400人程度	498人	・あしがるバス一日無料デーは、過去最多の利用があった昨年の444人を更に上回り、多くの方に利用していただいた。特に清洲城を通るオレンジルートについては通常の日曜日の400%超の利用があり、あしがるバスでまつり会場まで行けることが多くの方に認知していただき、会場までの移動手段として利用してみた方も多くおられたと考えている。 → 今後も、新規利用者の獲得や継続利用のきっかけづくりとして継続して実施していく。